

## アナンダホスピタルでのボランティアを通して感じたこと

西澤 孝朗

このボランティアに行くまで、私は東南アジアの人達や海外の人達との交流がほとんどなかったので正直言って不安がありました。しかし、このボランティアを通じて現地の人達と交流させて頂いたおかげで、海外の人達も日常生活で私達と似たような問題を抱えたり、人に対する心遣いを考えていたりすることに気付けたので、同じ人間であり、同じ世界に住んでいるということに大きな親近感を持つことができました。

現地のアナンダホスピタルでは日本の折り紙を使って診察を待っている患者さんとコミュニケーションを取ったり、現地の子供達にペンを配ったりなどさせて頂きました。当初、現地の人達は不思議そうな顔で私達を見ていましたが、喋りかけてボランティアであることを伝えると笑顔で対応してくれました。また一見暗そうに見える子供達が折り紙に夢中になって遊んでくれたり、折り紙を使って新しいアイデアを出してくれたり本当に楽しい時間を過ごすことができました。このことから言語が通じ合わなくても楽しい時間を一緒に共有できれば、距離感は縮めることは可能なのだと改めて教えてもらいました。

その他にもインドの現地の雰囲気を感じること、インドの良さと同時に日本の良さにも気付くことができました。何気なく使っている電化製品や、車など日本の製品がとても多かったように感じました。交通についても、信号や整った道が少なく、時速制限がないことや10歳くらいの子供がバイクに乗っていることについても驚きを隠せませんでした。日本では当たり前のことがインドでは当たり前ではなく、そのような新鮮な感覚を感じる事が出来てよかったです。日本で自分が様々な常識に囚われていることに身を持って体験させてもらったのも今回の大きな収穫でした。

また ANANDA HOSPITAL のドクターグプタが私達に本当に気をかけて、常に守ってくれたので私達は安心してボランティアでの生活が過ごせたのだと思います。ドクターグプタには病院の診察をこなしながら三度のご飯を僕達と一緒に過ごして頂いたり、空いている時間は現地の有名な名所に連れて行って頂いたり、本当に様々なことでお世話になりました。

この ANANDA HOSPITAL でのボランティアの経験を通じて多くの方々にお世話になり、ますますインドを好きになる事が出来ました。今回はこのような特別な機会を頂いて本当にありがとうございました。

